

埼玉県のがん 2014 概要版

2014 年 埼玉県地域がん登録データに基づく

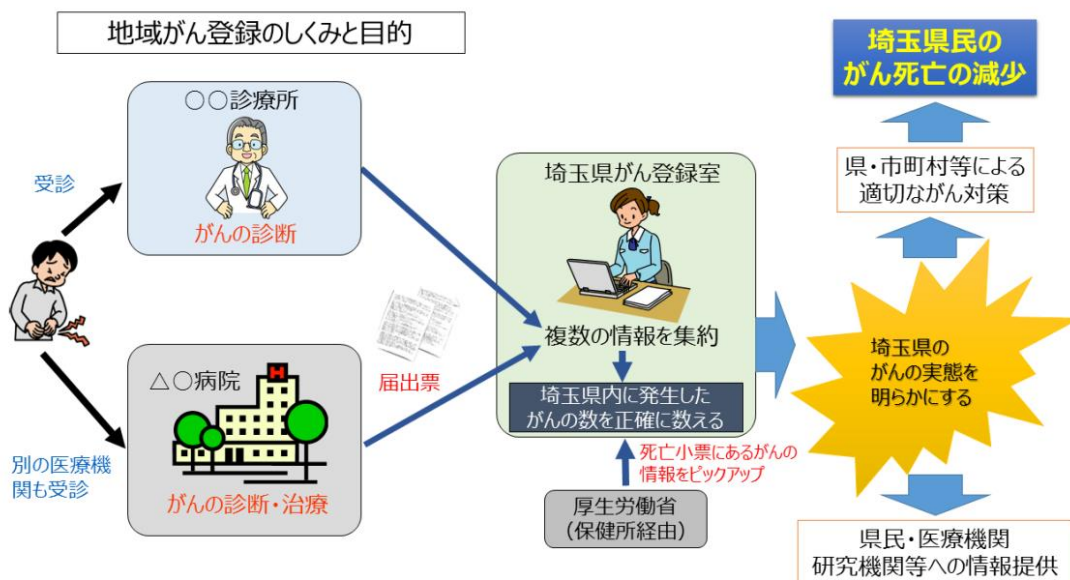
埼玉県地域がん登録

埼玉県地域がん登録の使命は、埼玉県におけるがんの発生、死亡及び医療状況の実態を調査することにより、がん罹患率、がん患者の受療状況、生存率を把握し、本県におけるがん対策の推進と医療水準の向上に資することです。上記目的を達成するため、埼玉県保健医療部疾病対策課では埼玉県のがんの登録と追跡、統計資料の作成、提供を行います。

がん情報の収集方法

埼玉県内の医療機関は、新たに悪性新生物患者を診療した場合、指定の届出票によって登録室に届け出ます。県内の保健所は、人口動態調査死亡小票を複写し、登録室に移送します。登録室は、①届出票の内容をデータ化、整理、登録、②死亡小票の内容をデータ化、整理し、既登録データと照合、③がんによる死亡で一定期間届出のない症例について、死亡診断書を作成した医療機関に提示し、届出を促す調査（遡り調査）を実施し結果を登録、④罹患から5年、10年経過し、登録室で死亡日を把握していない症例について診断時住所の市町村の協力を得て住民票閲覧等による生存確認を実施し結果を登録、以上の業務を行います。

届出票の主な収集項目は、個人識別項目（漢字姓名、生年月日、性別、住所）、腫瘍情報（診断日、部位、病理組織型、病期）、治療情報（治療方法、治療結果、死亡日）です。



全国がん登録

平成 28 年 1 月に「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、がんの罹患情報は全国がん登録として収集・集計・分析がされることになりました。これにより埼玉県地域がん登録は平成 27（2015）年罹患情報の集計、公表をもって終了します。

2014 年罹患の概要

集計の期間

罹患年月日（初めてがんと診断された日）が平成 26（2014）年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間

集計の対象

- ① 届出票及び遡り調査票で提出された悪性腫瘍及び上皮内腫瘍
- ② 死亡情報によってのみ把握している症例については、良性・悪性の別不詳（悪性の明示のない腫瘍など）で示される新生物による死亡で、部位が肝、膵、腎、膀胱、肺

精度指標

DCN 割合：12.1 %、DCO 割合：8.0 %、MI 比：0.45

DCN 割合：死亡情報で初めて把握された（死亡票にがんがあるのに届け出がない）患者の割合で、低いほどよい
DCO 割合：死亡情報のみで登録された（遡り調査による情報がない）患者の割合で、低いほどよい
MI 比：がん死亡数（人口動態統計による）とがん罹患数の比で、一定範囲に収まるのがよい（0.5 前後）

罹患の概要

2014 年に埼玉県において、男性 24,607 件、女性 16,600 件の、合計 41,207 件（上皮内がんを除く）のがんが新たに診断されました。男性で最も多いがんの発生部位は胃で、大腸（結腸・直腸）、前立腺、肺と続き、女性では乳房が最も多く、大腸（結腸・直腸）、胃、肺と続きます。

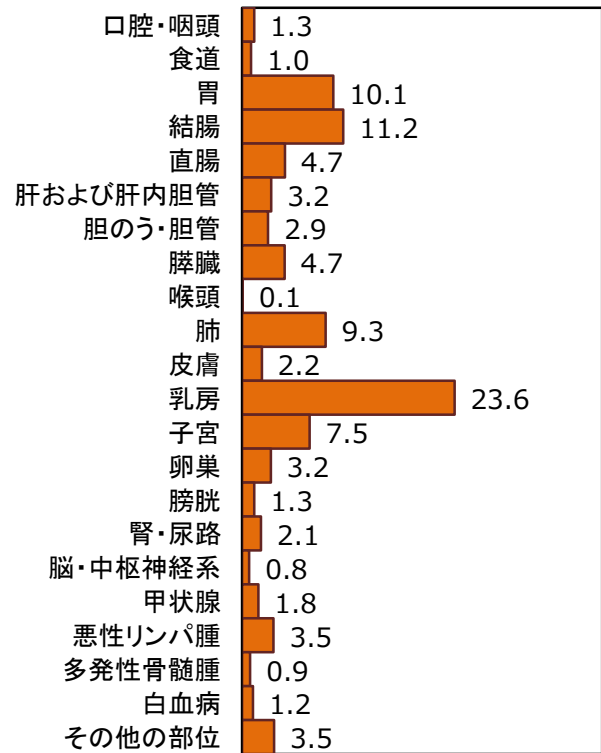
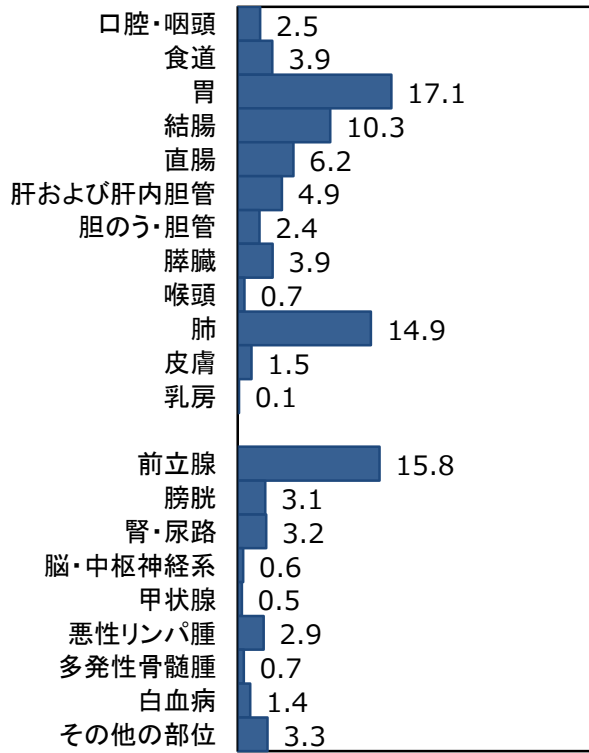
がん罹患の多い部位

	1	2	3	4
男性	胃 4,220 件 (17.1%)	大腸（結腸・直腸） 4,073 件 (16.6%)	前立腺 3,898 件 (15.8%)	肺 3,663 件 (14.9%)
女性	乳房 3,914 件 (23.6%)	大腸（結腸・直腸） 2,650 件 (16.0%)	胃 1,679 件 (10.1%)	肺 1,536 件 (9.3%)

部位内訳 (%)

男性 24,607 件

女性 16,600 件

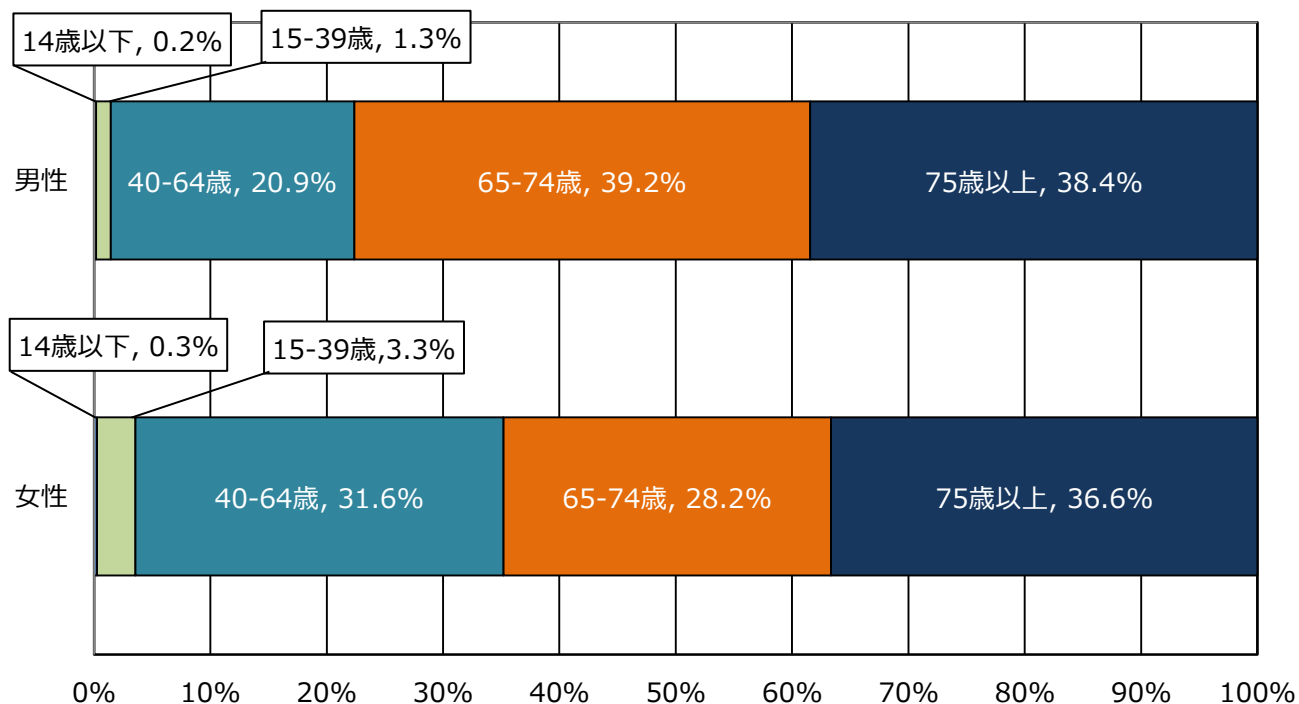


年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、65歳以上の割合は男性 77.6%、女性 64.8%、働き盛りの年齢層である40-64歳の割合は男性で 20.9%、女性で 31.6%でした。

女性の40-64歳のがんが多いのは、この年齢層に乳がんが多いためです。また、女性の15-39歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の子宮頸がんと乳がんが多いためです。

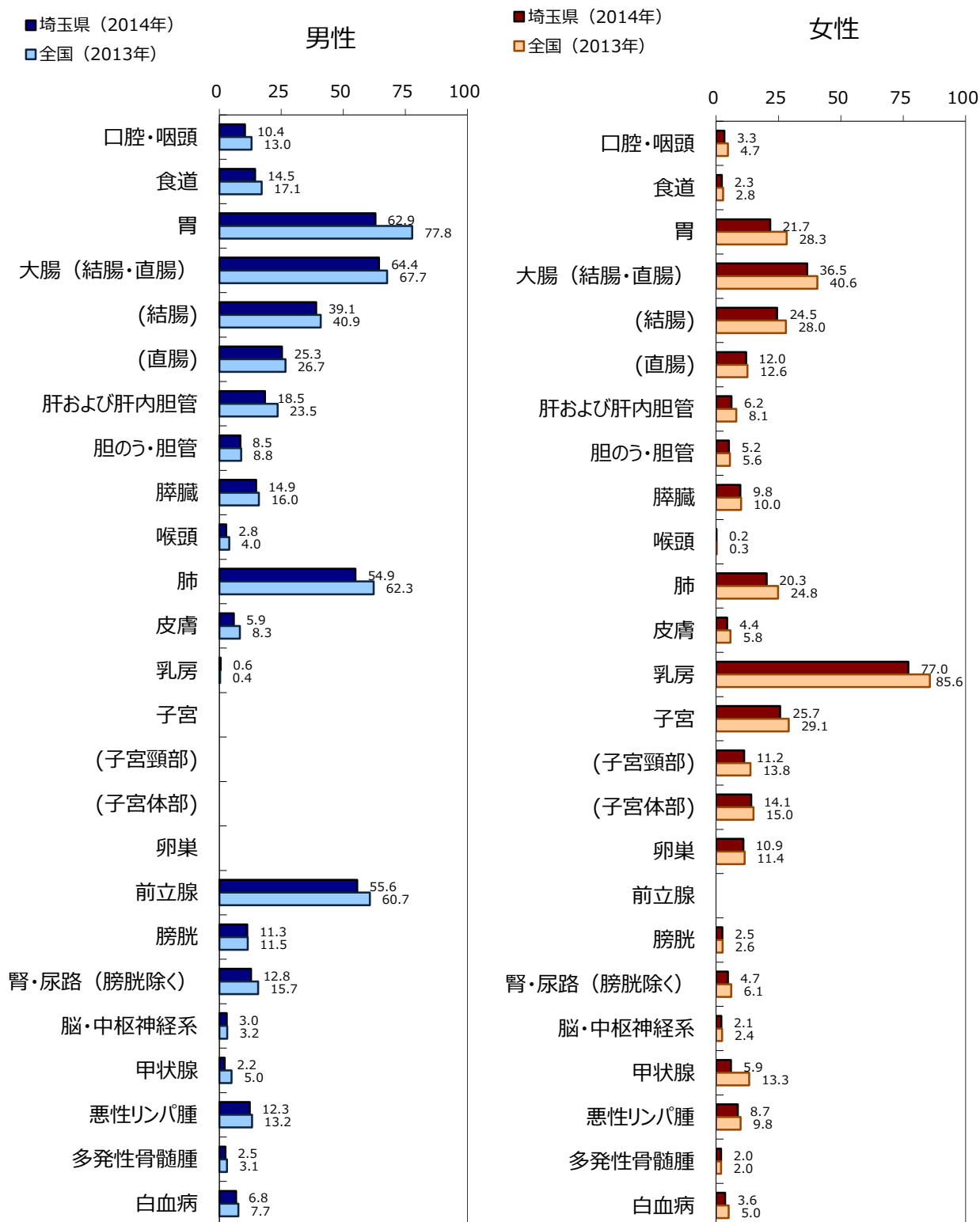
年齢別内訳 (%)



埼玉県のがんの罹患の特徴

埼玉県の年齢調整罹患率は、ほぼすべての部位で 2013 年の全国推計値より低い値を示していますが、これは届け出漏れによる影響を考慮する必要があります。（全国推計値はがん対策情報センター「全国がん罹患モニタリング集計 2013 年罹患数・率報告」（MCIJ2013）より引用）

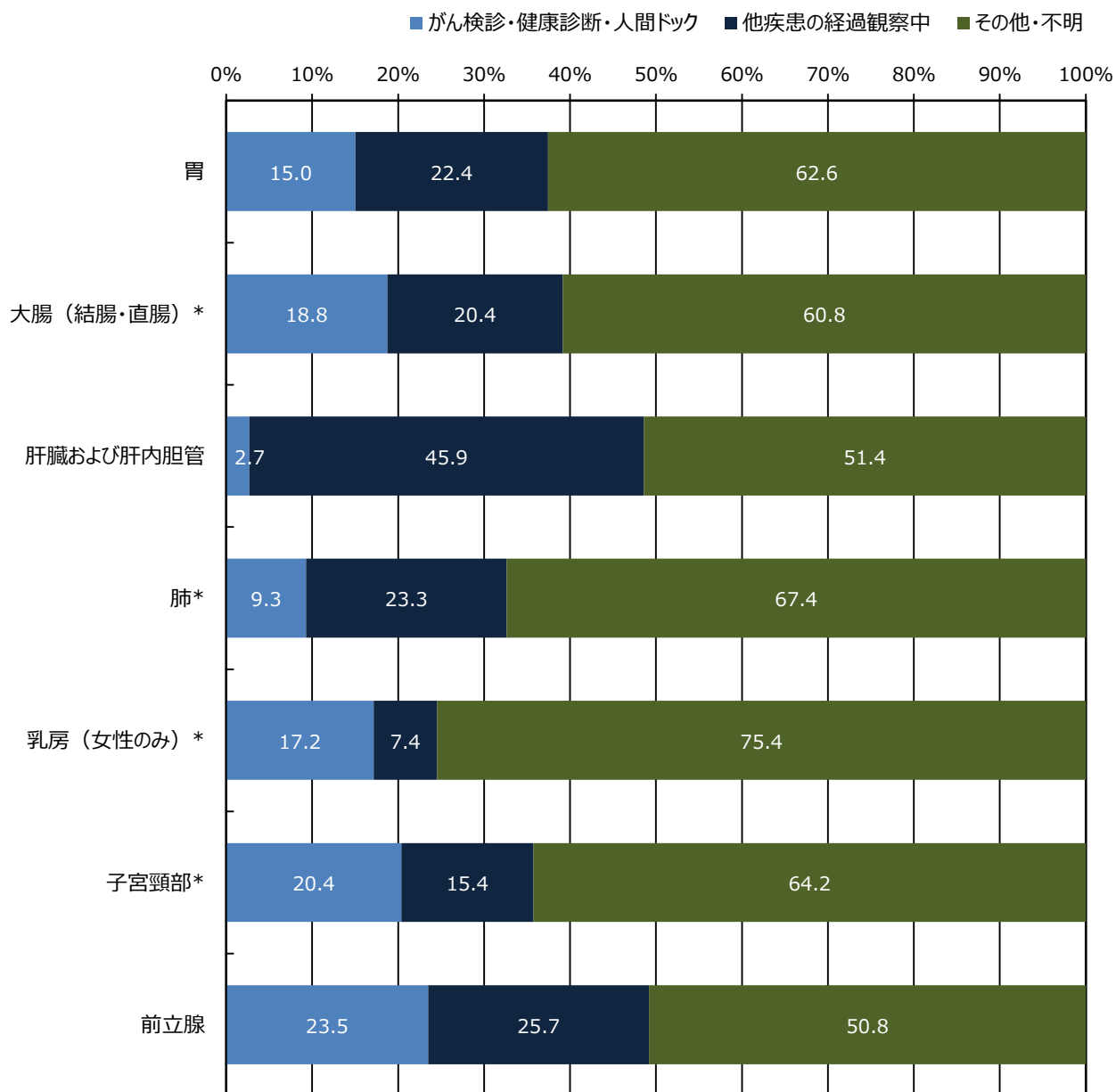
部位別がん年齢調整罹患率：人口 10 万対



発見経緯

「がん検診」及び「健診・人間ドック」が発見の契機となった症例の割合は、多い順に前立腺 23.5%、子宮頸部 20.4%、大腸 18.8%、乳房 17.2%、胃 15.0%、肺 9.3%でした。

部位別発見経緯 (%)

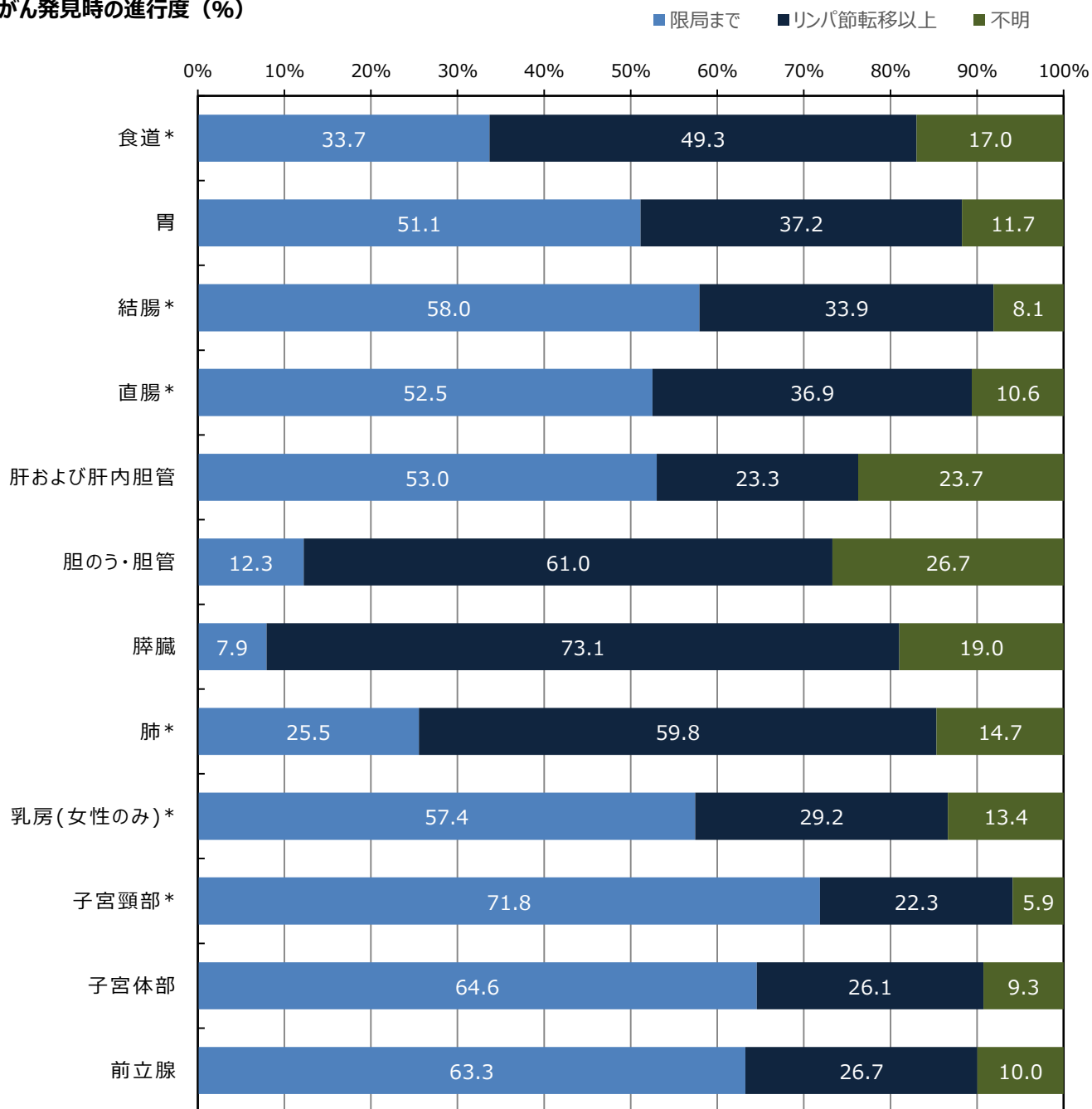


* 上皮内がんを含む

進展度

地域がん登録では、がんが原発巣からどこまで広がっていたかを「上皮内」、「限局」、「所属リンパ節転移」、「隣接臓器浸潤」、「遠隔転移」の五つに分けますが、ここでは「限局まで」（「上皮内」+「限局」：比較的早期のがん）と「所属リンパ節転移以上」（「所属リンパ節転移」+「隣接臓器浸潤」+「遠隔転移」：進行したがん）の二つに分けて示しています。胃、結腸、直腸、乳房、子宮頸部、子宮体部、前立腺では、発見時には比較的早期にとどまっている割合が高いのに対し、肺、膵臓、胆のう・胆管では進行したがんである割合が著しく高くなっています。

がん発見時の進行度（%）



* 上皮内がんを含む

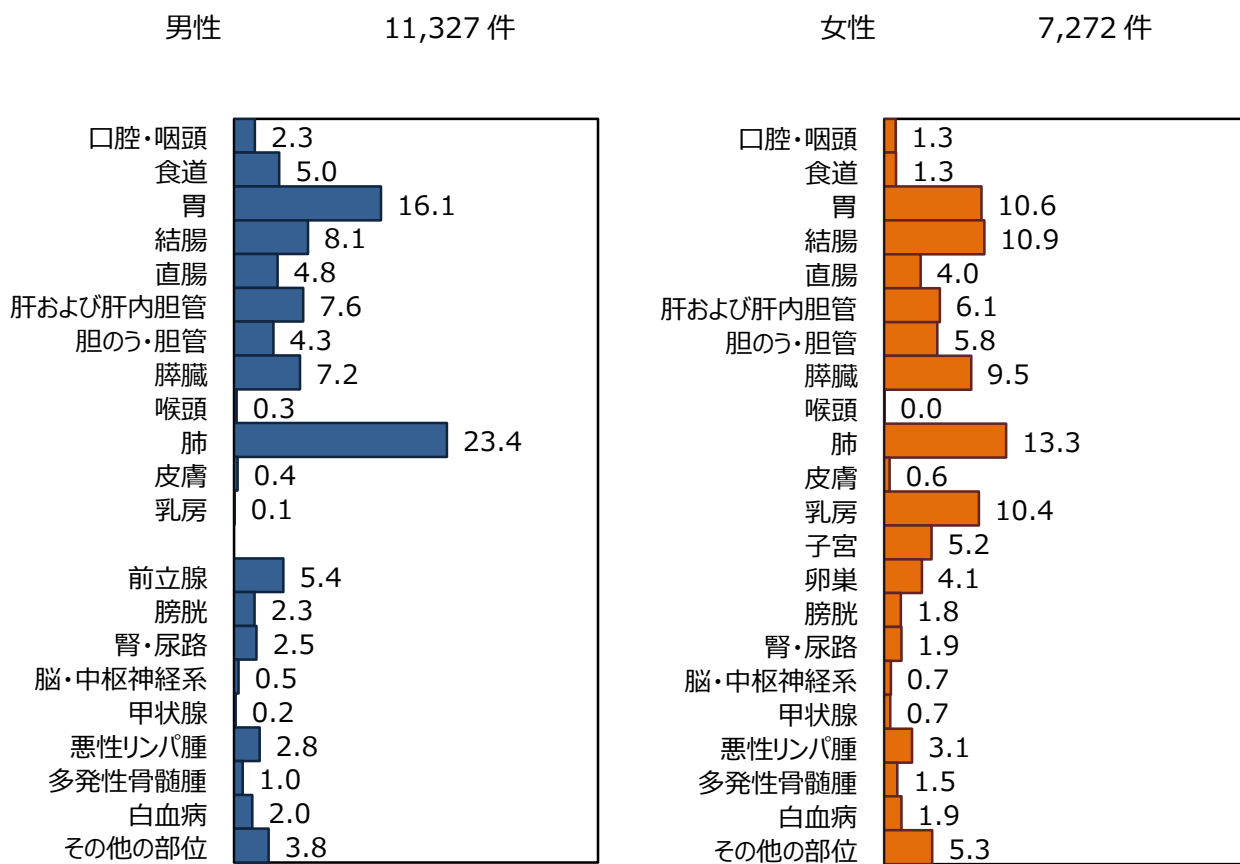
死亡の概要

2014年に埼玉県において、男性11,327人、女性7,272人、合計18,599人が、がんを原因として死亡しました。部位別では、多い順に男性では肺、胃、大腸、肝及び肝内胆管、膵臓、女性では大腸、肺、胃、乳房、膵臓となっています。男性の前立腺、女性の乳房は、罹患は多くなっていますが、死因としてはそれほど多くありません。

死因となったがんの発生部位

	1	2	3	4
男性	肺 2,649件 (23.4%)	胃 1,829件 (16.1%)	大腸(結腸・直腸) 1,462件 (12.9%)	肝及び肝内胆管 861件 (7.6%)
女性	大腸(結腸・直腸) 1,087件 (14.9%)	肺 969件 (13.3%)	胃 774件 (10.6%)	乳房 753件 (10.4%)

部位内訳 (%)



埼玉県のがんの死亡の特徴

全部位で見ると、埼玉県では男性167.2、女性91.3、男女計125.1に対し、全国では男性168.9、女性89.4、男女計123.8、と男性では全国より低く、女性で全国より高くなっています。臓器別に見ると、男性の胃で全国よりも死亡率が高く、男性の肝および肝内胆管で全国より低くなっていますが、それ以外にはあまり目立った差は見られません。（全国の値は国立がん研究センターがん情報サービスから引用）

部位別年齢調整がん死亡率（人口10万対）

